

# 海域管理計画モニタリング評価シート(案)・牧野委員修正

## 1. 調査対象に係る基本事項

構成要素	1. 海洋環境と低次生産
対応方針 または 保護管理 の考え方	順応的管理に基づく海洋生態系の保全と持続的漁業との両立を図るため、知床周辺海域の気象、海象、流水動態等の各種解析の基礎となる海洋環境や海洋構造及び海洋生態系の指標種などの調査研究やモニタリング調査を行い、その行動や動態を的確に把握する必要がある。

## 2. 調査対象

海水	水温・水質・クロフィラ・プランクトンなど	○	生物相	有害物質
サケ類	スケソウダラ		トド	アザラシ
海鳥類	海ワシ類		利用の適正化	

## 3. 調査・モニタリング表

調査名称等	主な内容	06	07	08	09	10
8. 魚類相調査 (斜里町立知床博物館)	魚類(新種)の同定	○	○	○	○	○
9. 知床沿岸の浅海域生物相調査 (環境省)	浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物及び海藻、海草類の調査	○	○	○	○	
10. 浅海域藻場調査 (環境省)	海藻、海草の生物相調査	○				

## 4. 評価

評 価	<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね維持 <input type="checkbox"/> 劣化	魚種、海藻、海草、無脊椎動物などについて生物相調査を実施 魚種については以前に報告されていた種のほかに新たな種が発見された
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 新規	生物相への影響を与える流氷など海洋環境の変化などとともに、定期的にモニタリング調査を継続していく必要がある
備 考		

5. 調査、モニタリングの概要 1/3

調査・モニタリング名	8. 魚類相調査			
主な内容	魚類（新種）の同定			
対象地域	斜里町、羅臼町			
頻度	随時			
調査主体	斜里町立知床博物館			
調査結果概要	確認種数は265種。科別の種数は次のとおり。			
	ヤツメウナギ科 2種 ギンザメ科 1種 メジロザメ科 1種 ネズミザメ科 2種 オナガザメ科 1種 ヨロイザメ科 1種 ツノザメ科 1種 ガンギエイ科 10種 アカエイ科 1種 チョウザメ科 2種 ソコギス科 1種 ホラアナゴ科 1種 アナゴ科 1種 カタクチイワシ科 1種 ニシン科 3種 コイ科 6種 ドジョウ科 2種 キュウリウオ科 3種	シラウオ科 1種 サケ科 12種 ワニトカゲギス科 1種 フデエソ科 1種 ハダカエソ科 1種 ミズウオダマシ科 1種 ミズウオ科 1種 ハダカイワシ科 2種 フリソデウオ科 1種 ソコダラ科 3種 チゴダラ科 3種 タラ科 3種 アンコウ科 1種 イザリウオ科 1種 ボラ科 2種 サンマ科 1種 サヨリ科 1種 カダヤシ科 1種	カフトウオ科 1種 クジラウオ科 1種 アカマンボウ科 1種 マトウダイ科 2種 オオメマトウダイ科 1種 シワイカナゴ科 1種 トゲウオ科 5種 ヨウジウオ科 1種 フサカサゴ科 13種 ホウボウ科 1種 ギンダラ科 2種 アイナメ科 6種 カジカ科 26種 ケムシカジカ科 4種 トクビレ科 14種 ウラナイカジカ科 3種 ダンゴウオ科 3種 クサウオ科 17種	ハタ科 1種 キントキダイ科 1種 ムツ科 1種 コバンザメ科 1種 シイラ科 1種 アジ科 5種 ハチビキ科 1種 マツダイ科 1種 イスズミ科 1種 イシダイ科 2種 カワスズメ科 1種 ウミタナゴ科 1種 メダマウオ科 1種 ゲンゲ科 8種 タウエガジ科 14種 ニシキギンボ科 4種 オオカミウオ科 1種 ボウスギンボ科 1種
知床博物館ウェブサイト閲覧日：2010. 11.				

5. 調査、モニタリングの概要 2/3

調査・モニタリング名	9. 知床沿岸の浅海域生物相調査
主な内容	浅海域を対象とした魚類、無脊椎動物及び海藻、海草類の調査
対象地域	ウトロ側3か所、羅臼側3か所、岬周辺1か所の3か所
頻度	年2回（夏、秋に1回ずつ）
調査主体	環境省
調査結果概要	<p><b>【魚類】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年から4年間実施</li> <li>・10目7科97種を確認(1未同定種含む)</li> <li>・本調査では、以前に報告されていた29目79科255種に加え、24種の魚類を新たに確認</li> </ul> <p><b>【海藻相】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年から4年間実施</li> <li>・緑藻17種、褐藻39種、紅藻53種の計109種の生育を確認</li> </ul> <p><b>【無脊椎動物相】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年から4年間実施</li> <li>・これまでに生息を確認した種の内訳は、刺胞動物門4種、扁平動物門1種、触手動物門2種、軟体動物門83種、節足動物門70種、環形動物門17種、紐型動物門1種、星口動物門1種、棘皮動物門16種の計195種</li> </ul>

5. 調査、モニタリングの概要 3/3

調査・モニタリング名	10. 浅海域藻場調査
主な内容	海藻、海草の生物相調査
対象地域	羅臼（ペキンの鼻付近）
頻度	7月
調査主体	環境省
調査結果概要	 <p>調査位置図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査は、オニコンブ漁が始まる1週間程度前の2006年7月10日に実施</li> <li>・出現種は39種</li> <li>・伝統漁業によるコンブ藻場の利用と世界遺産登録による観光客の増加に影響との摩擦が懸念される</li> <li>・優先種の変動が見られる。流水の勢力の減少との関係も疑われ、気候変動の影響を把握する必要がある</li> <li>・海洋環境が変化していることが懸念されるため、海藻相と海洋環境の長期的なモニタリングが必要である</li> </ul>